

<経済>**第9回「香港・華南ビジネス交流会」開催**

6月9日、当店は、香港に拠点を持つ地方銀行16行との共催で、「香港・華南ビジネス交流会」を開催しました。

本交流会は、香港・中国華南地区に進出している日系企業からの「変化の激しい中国のビジネス環境について正確な情報が欲しい」、「同じ環境下で頑張っている日系企業同士のネットワークを広げたい」との共通のニーズにお応えするもので、今年で9回目の開催となりました。主催者である地方銀行各行のお取引先で、香港および華南地区に進出されている企業を対象に、セミナー、懇親会および個別商談会を行いました。

当日は、158社208名が参加され、業種を超えて活発な情報交換が行われ、盛況のうちに終了しました。

【ジェットロ進出企業支援セミナー】

ジェットロによるセミナーでは、ジェットロ上海事務所長・小栗道明氏による「華東地域を中心とする中国の消費市場動向」、西村あさひ法律事務所上海事務所・野村高志弁護士による「中国・香港における法的観点からのビジネス展開上の課題と解決策」の講演が行われ、最新の中国・香港情報に、参加者は熱心に耳を傾けていました。

【個別商談会】

個別商談会では、多くの企業がパンフレットや商品サンプルを用いて、商品説明・情報交換を行っていました。各15分、計64コマの個別商談は事前の申し込みで全て埋まり、参加者からは「短い時間ながら有意義な商談ができた」などの意見がありました。

【懇親会】

懇親会は、立食パーティー形式で約2時間開催され、「ネットワークの構築」、「販路拡大」など、共通の目的を持った参加企業同士で活発な意見交換が行われました。個別商談会だけでは不足、面談希望の企業同士の引き合わせが会場のいたるところで見られ、会場は終始熱気に包まれました。



観光見本市「国際旅遊展」開催

6月15日～18日、香港で観光見本市「国際旅遊展」が開催され、旅行関連業者、一般来場者を合わせて約9万人が訪れました。本イベントは、香港からのインバウンド誘致を目的としたイベントで、今年は52カ国・地域から約650社・団体が出展しました。日本からは、各都道府県のほか、旅行会社、鉄道会社、ホテルなど、55社・団体がブースを設け、香港で人気の日本人タレントが訪れるなど、大盛況となりました。



<四国4県の魅力を発信する四国ブース>

日本を訪れる香港人は年々増加しており、昨年は164万人（国民の5人に1人）が訪れるなど、日本は海外旅行先として台湾や韓国を抜き、首位の人気を誇っています。彼らはインターネットやSNSで最新かつニッチな情報を入手し、団体旅行ではなく個人手配で訪日しているのが特徴です。また、訪日客の8割が2回以上日本を訪れており、10回以上のリピーターも2割いることから、最近では、東京や大阪などのメジャーな観光地から、地方に関心が集まっています。



<巫女が出迎える山陰ブース>

イベントには四国ブースも出展し、香港でもまだ認知度の低い四国の魅力をアピールしました。昨年7月に、香港－高松間の直行便が就航して以来、高松を拠点とした中四国周遊観光が徐々に人気を集めています。彼らの目的は、都心にはない美しい自然、美味しい料理、そして四国でしか経験できないアクティビティの数々です。香港の観光業界では「日本最後のデスティネーション（目的地）」と呼ばれる四国が、訪日客の人気観光地になる日も、そう遠くないかもしれません。

香港・広東省の見本市予定（2017年7月～2017年9月）

香港

見本市名	場所	期間
香港ブックフェア 2017	HKCEC	7/19～7/25
香港フードエキスポ 2017	HKCEC	8/17～8/21
Natural & Organic Products Asia	HKCEC	8/30～9/1
レストラン&バー展（飲食業展示会）	HKCEC	9/5～9/7
シーフードエキスポアジア	HKCEC	9/5～9/7
香港ジュエリーショー	HKCEC/AWE	9/13～9/19

※ HKCEC：香港コンベンション&エキシビジョン・センター

※ AWE：アジアワールドエキスポ（香港国際空港側展示会場）

広東省

見本市名	場所	期間
第 19 回中国国際建築装飾展	琶洲会場	7/8～7/11
広州国際クロスボーダー E コマース&グッズ展	琶洲会場	7/21～7/23
広州国際太陽光発電フェア	琶洲会場	8/16～8/18
中国ガラス製品、ガラス加工機械関連フェア	琶洲会場	8/28～8/30
NEPCON SOUTH CHINA（エレクトロニクス総合展）	SZCEC	8/29～8/31
第 15 回中国国際ホスピタリティ用品フェア	琶洲会場	9/8～9/10
第 7 回広州国際輸入食品展 第 8 回国際健康食品展 第 8 回国際オーガニック食品展	琶洲会場	9/15～9/17

※琶洲会場：中国出口商品交易会琶洲展示館（広州）

※SZCEC：深圳コンベンション&エキシビジョン・センター

上記の見本市は予定が変更になる場合もありますのでご留意下さい。

★トピックスレポート（香港人スタッフ便り）★

カンボジア人メイドの導入

香港には現在、約 35 万人の外国人メイド（お手伝いさん）が働いています。出身国別で最も多いのはフィリピンとインドネシアであり、他にもタイ、インド、スリランカ、バングラデシュから出稼ぎでメイドとして働いています。一方、香港政府の方針で、中国本土、マカオ、台湾、ベトナム等からはメイドとしての就労ビザを許可せず、受け入れを禁止しています。

今年 3 月、香港政府はビザ発行の規制を緩和し、カンボジアからの就労、投資、留学を受け入れる方針を発表しました。何千、何万人ものカンボジア人が、メイドとして香港での就労を希望することが予想されていますが、今年 9 月にその第 1 陣として、約 1,000 人のメイド希望者が来港することになりました。

メイド希望者は来港前、カンボジアにて広東語、子ども・高齢者等のお世話、中華料理の作り方など、3ヶ月の研修を受けるそうです。香港から派遣されたシェフが講師を務める本格的な中華料理の勉強や、新しい労働環境に慣れるためのプログラム等、色々な研修が用意されているようです。カンボジア人は香港に似た文化や食習慣を持ち、仏教徒であることから、香港の雇用主の間で人気が出るのではと見られています。

カンボジアのメイド希望者にとっても、香港での収入は他国に比べて魅力的に映るでしょう。現在、100万人近いカンボジア人がタイで働いているといわれていますが、タイでの収入は月額 300～400米ドル（約 3万3千円～4万4千円）ほどです。一方香港では、住み込みで働くため住居費がかからないうえに、月額 550米ドル（約 6万1千円）の収入を得ることができます。

近年、インドネシアにおけるメイドの外国派遣の規制や、タイの経済成長などを背景に、香港に出稼ぎに来るメイドが減少しつつあります。カンボジア人メイドの導入は、香港で減りつつあるインドネシアとタイからのメイドの穴を埋める存在になるかもしれません。

家事や家族の世話を担う外国人メイドは、香港の家庭に広く浸透し、なくてはならない存在です。カンボジア人メイドは香港の雇用主にとって新たな選択肢となるでしょう。